しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」
学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

センターだより

第 128 号
令和２年 12 月

島根県教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/
島根県教育センター浜田教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/hamada_ec/

ICT を活用した授業改善講座　～子どものタブレット端末活用～

１０月７日（水）に、能力開発研修「ICT を活用した授業改善講座（子どものタブレット端末活用）」を行いました。

研修は美郷町立邑智小学校及び美郷町立みさと館を会場とし、授業改善に ICT をどのように活用していくかをテーマに公開授業の見学と研究協議を行いました。

第３学年の公開授業では、「デジタルアートにチャレンジ」という単元で、オリジナル水族館を表現する活動を行いました。児童がデザインした海の生き物を、自分でプログラミングソフトを用いて動かし、表現の工夫や面白さを楽しみました。

第５学年の公開授業では、「水産業のさかんな地域」の単元で、浜田市の漁業従業者の方と Web 会議サービスを用いて、双方向にやりとりをする活動を行いました。コロナ禍において、地域とつながる手立ての一つとしての提案でした。

受講者からは、「絵を描くことに苦手意識のある子どもにとっても、自分が描いた絵が動くことで意欲につながる教材だったと思います。」、「遠くにいる人とつながり、やり取りができることが子どもの意欲につながっていたことは間違いないと思います。」、「授業のねらいや子どもたちにつけたい力を明確にして、ICT を効果的に活用することで、授業改善につながると感じました。」、「ICT 活用の細やかな計画やつけたい力等の学校全体で取組んでおられる体制がとても素晴らしく、参考にさせて頂きます。」、「子供たちが、タブレット、付箋、ノート等必要に応じて自然に使いこなしている所からも、積み重ねの大切さがよく分かりました。」等の感想がありました。

公開授業②：第５学年　社会科
単元名「水産業のさかんな地域」

GIGA スクール構想による ICT 環境整備が急速に進む中、一人一台タブレット PC 環境を活用した授業の在り方について、受講者が具体的に考えることができる研修会になりました。

また、本研修の開催にあたって、美郷町教育委員会並びに美郷町立邑智小学校の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

公開授業①：第３学年　図画工作科
単元名「デジタルアートにチャレンジ」

【協議】
「公開授業から気づいた、今後自校が／自分が取り組みたいこと」

仲間とともに学びあえる教育センター研修

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、４月から６月に実施予定であった新任教職員研修及び教職経験者研修の教育センター研修を中止としました。その間、校内ＯＪＴを中心とした自主研修としていましたが、７月末から感染対策をしながら、新任教職員研修及び教職経験者研修の教育センター研修を実施しています。

新任教職員研修

７月末、８月上旬に教諭、養護教諭、栄養教諭、は日程を縮小して第Ⅲ回を実施することができました。幼稚園教諭は、８月下旬に第Ⅱ回を実施しました。第Ⅰ回で実施できなかったクラス集会も行い、ようやく新任教職員が顔を合わせ、感染症対策をしながら、新任教職員同士のつながりを大切にした研修が実施できました。受講者の感想には、「**他の初任者と一緒に協議したことで、これから自分は何を大切にしていけば良いのかが明確になりました。**」「**初任研の同期とようやく顔を合わせることができて安心しました。ともに悩んだり、考えたりすることを通して、高めあえる仲間になれたらと思います。**」という記述がたくさんありました。不安や悩みを抱えている新任教職員にとって、顔を合わせて互いの思いを共有し合う場が必要であることを改めて感じました。

10 月１日、２日の教育センター研修では、まだ顔合わせができていなかった小・中学校事務職員、実習教員、寄宿舎指導員も含め、児童生徒へのかかわりを考える研修を行いました。

幼稚園教諭については、10 月 20 日（火）に第Ⅲ回を島根大学教育学部附属幼稚園で実際に保育の様子を見て研修を行いました。

今年度はあと１回の研修になります。これからの教職員生活をともに歩む新任教職員同士のつながりを強めたり広げたりできる研修の場とするとともに、教職員としての資質・能力を高め合える研修を実施していきたいと思います。

中堅教諭等資質向上研修・専門性向上研修

８月３日に西部、８月４日に東部で今年度初めての集合型研修を開催しました。半日の時程にし、「人権教育」や「授業づくり」、「職務研修」等の時間を短縮したり、「特別支援教育」をオンデマンド型研修に変更したりしましたが、短い時間でも有意義な研修となったことが、受講者の皆さんのアンケートから伺えました。

・共に研修する仲間に久しぶりに会えて、協議もできて励みになりました。時間はタイトでしたが、コロナに配慮しつつ、研修を開催していただき、ありがとうございました。（高等学校教諭）

・他の受講者の方とも話すことができて安心しました。仲間の取組を聞くことは参考になりますし、一番励みになります。次回が楽しみです。（特別支援学校教諭）

・久しぶりに栄養教諭の仲間や指導主事と会って話ができたことで、栄養教諭としての職務が日々できているかという不安感が和らいだ気がしました。課題研究をやりとげることで自信につながると思うので、がんばりたいです。（栄養教諭）

第Ⅳ回教育センター研修（学校を会場とした研修）も残念ながら中止となりましたが、校内ＯＪＴを充実させた効果的な研修となるよう、今後も工夫改善に努めてまいります。

教職経験６年目研修

～「みんなに会えて嬉しかった。」という声があちこちで～

今年は、６年目研修を通して自らの資質･能力を高めようと張り切っていた矢先の出来事に、戸惑いを隠せない受講者がたくさんいらっしゃいました。**「６年目研修をどのように取り組んでいけばよいのか、自らで課題を見つけ、その研究を深めて行くにはどのようにすればよいのか。」「自分の研究や悩みを相談したい。」**様々な思いをもちながら６年目研修がスタートし、自己研修のみの１学期が終わりました。

８月、“**仲間とやっと会えた**”第Ⅱ回教育センター研修。第Ⅰ回は各学校での映像による研修だったので、直接顔を合わせるのは初めて。遠く離れていた恋人（友達）にでも会うかのように、心弾ませ教育センターに集いました。半日研修に縮小したため、研修内容を精査し、受講者にとって必要と思われるポイントを絞り、短い中にも充実した研修になるよう計画しました。研修を終えた受講者は、仲間と会えた喜びを胸に、授業実践を通した研修活動への意欲を高め、それぞれの学校へ帰って行きました。

【教職員研修】［１０９４］特別支援学級担任３年目研修

特別支援学級の授業づくりについて～特別支援学級の魅力を生かして～

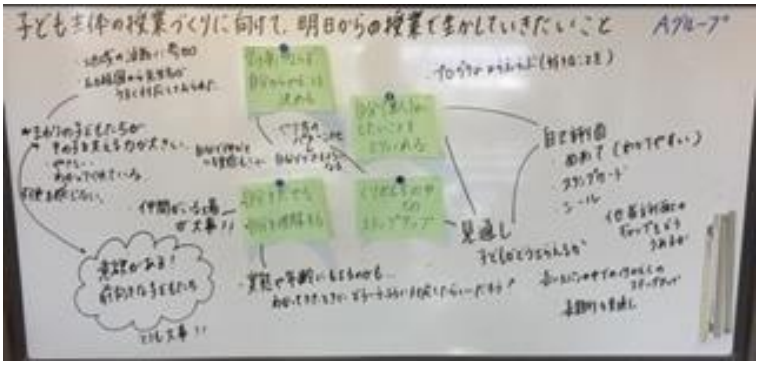
７/１０（金）島根県教育センター

毎年、特別支援学級担任３年目の方を対象に研修を行っています。特別支援学級新任担任の方は例年 100 名を超えていますが、３年目の方になるとその３分の１の人数に減少し、大変貴重な存在となっています。今年度は研修の目的を「特別支援学級の児童生徒に育てたい力を明確にした学級経営や授業づくりについて学び、指導力の向上を図る。」としています。本来ならば１日の研修を予定していましたが、社会情勢により、１時間半の講義と１時間のグループ協議という短い時間での開催となりました。

講義では、いわみ福祉会こくぶ学園の田中康夫施設長を講師に、「特別支援学級の授業づくりについて～特別支援学級の魅力を生かして～」をテーマに、お話をしていただきました。特別な教育課程の必要性、子どもの実態をしっかりと捉え、つけたい力を明確にすることが子ども主体の授業づくりにつながること等のお話をいただきました。講義後の感想では、児童の実態を捉えることの大切さや、子ども主体の授業を再考し、ヒントを得たという声が複数ありました。

その後のグループ協議では、田中先生の講義をうけて、「子ども主体の授業づくりに向けて、明日からの授業で生かしていきたいこと」について話し合いました。授業づくりについて考えていく中で、日頃悩んでいることなど同じような思いを共有し、他校、他校種の取組について知ることができ、とても有意義な時間となりました。それにより、安心した、がんばろうと思えたというような前向きな気持ちをもたれた方が多かったようです。校内で特別支援学級の授業づくりや運営について同様の悩みを抱えている人が少ないことや、コロナ禍の中で他校の教員とふれ合う機会が普段以上にもてなかったことなどから、よりグループ協議のニーズが高かったことがうかがえました。短時間のグループ協議であったため、もう少し時間があるとよかったという意見も多く、このような協議の大切さを改めて感じることができました。

今回の研修を通して、田中先生の子どもや親の願いを受け止め、丁寧に向き合おうとされる思いや、担任を支える言葉をお聞かせいただいたことで、明日からもがんばろうと背中を押していただけた研修となりました。



グループ協議より

教科等横断的な学びをめざして・・・

キーワードは「知の統合」！？

「**教科等横断的な学び**って？」浜田教育センター研究･研修スタッフが、昨年度から取組んでいる研究テーマです。

新学習指導要領では、各学校においてカリキュラム・マネジメントの充実に努めることが求められています。その三つの側面の一つに「教科等横断的な視点で教育の内容等を組み立てること」があります。しかし、島根県教育センターのカリキュラム・マネジメントに関連する各研修の受講者からは「教科等横断的な視点」について、なんとなくわかったようでわからない、やっているようでこれでいいか分からない、そもそもそれってやる必要があるの？などの声が上がっていることも事実です。

◇教科等横断的な視点で教育の内容等を組み立てることで期待される効果

実施するためには、カリキュラム（教育課程・年間指導計画等）を見渡し整理することが必要です。そうすることで次のような効果が期待されます。

・単元や単位時間の意義付けを一層明確にすることにより、限られた時間の中での実践の効果を高める。
・学習内容、教材、学習方法、体験活動を、複数の教科・領域で繰り返し活用したり関連づけたりすることにより、学びが深まる。知の活用可能性（特定の教科の知識が他の教科や生活でも使えるということ）を児童生徒が実感できる。
・ひとつの体験や学習内容を複数教科に活用することにより、新たな体験や教材の追加や特設授業を抑制し、カリキュラムのスリム化につながる。
・教師に、カリキュラム全体で子どもを育てる意識を促し、先の見通しをもった実践へつながる。

（田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡加名恵『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016 年）

子ども達は、獲得した知識を自身で引き出し活用する、その活用した知識が新たな知識に再構築される等思考をつなげています。○時間目は△△の授業、と分けて考えているのは、実は大人側なのかもしれません。カリキュラムを見渡し整理することで指導者側の意識が変わります。

◇「教科等横断的な学び」の実現にむけて

本スタッフは研究の中で、学習指導要領（平成 29 年度告示）等をもとに、教科等横断的な視点を「教科や領域の枠にとらわれず、それらをつないでいく見方」とし、そのような視点のある「学び」を「教科等横断的な学び」と定義付けています。さらに、その学びの具体に向けて「カリキュラムづくり」と「授業づくり」の２面からのアプローチを考えています。

キーワードは**「知の統合」！**授業改善の手立ての一助となるよう、今後は、①「教科等横断的な視点」の重要性の理解　②「教科等横断的な学び」のデザインのヒント　を情報発信していきます。